



2026 年 5 月 15 日
株式会社 MIXI

2026 年 3 月期通期決算説明会 質疑応答要約

- Q1 今回開示した中期ビジョンの目標達成時期は、いつ頃を見込むのか。
- A1 2030 年代の初頭を想定している。一方で、できるだけ早期での達成を目指していく。
- Q2 中期ビジョンで掲げている効率性の向上について、スポーツとライフスタイルの利益構成比を高める方針とのことだが、現状、デジタルエンターテインメントに比べ、相対的に利益率が低い為、利益率は低下するのではないか？
- A2 スポーツやライフスタイルは転換期にあり、今後は収益性の改善を見込んでいる。
「We-time エコノミー」、つまり家族や友人と一緒に楽しむ時間から生まれる経済圏の中で、スポーツとライフスタイルのマネタイズ等を強化し、ユニットエコノミクスの改善を図る。その結果、利益構成比の上昇とあわせて、全体の収益性向上も実現していく考えである。
- Q3 デジタルエンターテインメントは、中期ビジョンで売上高 900 億円以上を目指す一方、FY2027 業績予想ではモンスターストライクの減収を見込んでいる。また外部から見る限り、インドで展開している STRIKE WORLD が強く立ち上がっているように感じていない。どのような目標を達成し、収益性を維持・改善していくのか教えてほしい
- A3 国内のモンスターストライクは継続的な投資を行いながら、減衰率を抑制し、長寿化を図っていく。加えて、インド市場で展開している STRIKE WORLD の成長を織り込み、デジタルエンターテインメントにおける売上高 900 億円以上という目標を設定している。なお、FY2027 業績予想には STRIKE WORLD の売上寄与は織り込んでいない。本格運用開始が 2026 年の 4 月であり、立ち上げ初期段階にあるためである。今後の収益貢献については期待している。
- Q4 スポーツのベッティング事業におけるチャリ・ロト社の成長は、車券販売に加え競輪場の包括受託運営が牽引しているように見える。包括受託運営の収益性は車券販売と同程度か。
- A4 競輪場の包括受託運営については、車券販売事業ほど収益性は高くないもののサステナブルに成長させやすく、当社の株主資本コストを上回る利益率も期待できる事業である。

Q5 FC 東京など、プロスポーツチーム運営を行う観戦事業は、単独で資本コストを上回る収益性を確保するのが難しい事業に見えるが、どのように考えているか。

A5 観戦事業については、現時点で当社の株式資本コストを上回る収益性には至っていない。今後も収益性向上には限りがあると考えてはいるものの、当社のブランド価値の向上に寄与しているため、黒字転換を目指しつつブランディング効果を活用し、運営していく方針である。

以上